

小・中学校
義務教育学校で

タブレット端末を

「いつでも使える環境が実現

〜守口市版GIGAスクール事業がスタート〜

市では、市立小・中・義務教育学校に、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育環境を実現します。

今般の新型コロナウイルス感染症の影響で、ICTを活用した「学びの保障」の必要性が高まり、一日も早く利用できるよう整備を急ぎ、3学期から利用を開始します。

問教育センター
TEL 06-6997-0703



タブレット端末を使った学習場面



わかりやすい
一斉学習

教師が、子どもたちの学習状況を把握したり、端末の画面に学習課題を提示したり、双方向の一斉授業が可能になります。



じっくり深く
個別学習

個々の学習履歴を基に、一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能になります。



新たな発見がある
協働学習

一人一人の考えをお互いに瞬時に共有し、子ども同士で双方向の意見交換が可能になります。

「GIGAスクール事業」解説

Q どうして1人1台端末を導入するのですか。

仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。一方で、ネット利用をめぐるトラブルも発生しています。こうしたことから、1人1台端末を使いながら、情報や情報技術を適切に活用する能力「情報活用能力」などを育成していきます。

子どもたちが、タブレット端末を使って、自分のペースで理解しながら学習を進めたり、自分の考えを、文章だけでなく、画像や動画を用いて表現を工夫し、友達と共有・協働する活動を増やしたりするなど、学校の授業や家庭学習を充実していきます。

また、ICTは文字を読みにくい、授業中に落ち着かないなど支援が必要な子どもたちにとっても有効で、積極的に活用していきます。

Q どんな授業に変わるのですか。

8ページの写真のように、授業のさまざまな学習場面で、タブレット端末を活用します。その際、デジタルに全て移行するのではなく、これまで行われてきた、実物を見たり、触れたりする活動を大切にしながら、子どもたちに最適な学び方をベストミックスした授業を目指します。



守口市教育委員会
教育長 太田 知啓
(文部科学省在籍時に教育の情報化を担当)

導入するタブレット端末の概要



Apple iPad

(第7世代 Wi-Fiモデル、
フリップカバー、有線キーボード付)

学習で利用するアプリケーション

Web閲覧、写真・動画撮影・編集、文章作成、
表計算・グラフ作成、プレゼンテーション作成、
音楽作成、描画、Web会議、協働学習
支援(ファイル共有などが可能)、ドリル学習、
プログラミング など

今後、教育委員会が定めた「利用ルール」の下で、タブレット端末を持ち帰り、家庭学習でも使用できるようにする予定です(通信環境は各家庭のものを使用します)。

「GIGAスクール事業」：令和2年度中に、全国の小・中学校に、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワーク環境を実現 ※GIGA=Global and Innovation Gateway for All